

歴史街道を歩く
美濃路
美濃路は中山道の重井宿と東海道の宮(熱田)宿を結び、大垣・恵保・萩原・稲葉・清洲・名古屋の7宿がありました。中山道や東海道などの五街道に付属する街道として、五街道と間く南府の道中奉行の支配下に置かれた。将軍や大名、朝鮮通信使や琉球使節などの大通行や、家、お茶店などの特殊な通行にも美濃路が利用されました。東海道の難所である鈴鹿峠と、桑名と宮の間の海上七里の渡しを迂回することができたと思われま。

21 人柱観音 MAP-F-3
慶長(1596~1615年)のころ、木曾川の分流、小信川の架設の難工事に人柱として溺死に身を投じたと伝えられると、高尾大橋の架橋工事で亡くなった3名をまつる人柱観音が昭和32年(1957年)に開設しました。

22 宮戸河跡 MAP-F-3
大明神社の前から対岸の新井村(現・羽島市)の豊明河戸への渡し口で、起程の商家が荷物を運ぶ船が発着する渡でした。

22 起の大イチョ MAP-F-3
樹高30mほどのいちょうの巨木。昭和38年(1963年)愛知県指定天然記念物。

22 起のヤマガキ MAP-F-3
野生の柿の大木で、平野郡で生育している例は初めて珍。昭和42年(1967年)愛知県指定天然記念物。

29 馬頭観音 MAP-I-4
宝暦13年(1763年)に萩原の馬侍12名が発起人になって建立しました。

30 正瑞寺 MAP-I-4
正瑞寺がある曲がり角には高札場が設置されていました。

23 披本陣跡 MAP-F-4
起程の本陣に異変が生じた際の待避所として、隣の小信中島村の吉田家にこれに当、披本陣とした。

25 天神の渡し跡 MAP-H-4
日光川は、かつて木曾川の主流のひとつで、慶長年間(1596~1615年)までここに渡船場があり、「天神の渡し」といきました。のちに川幅が狭められて渡しは廃止されました。

26 孝子佐吉平の碑 MAP-H-4
吉原村の住人である萩原の馬方だった佐吉平は、盲目の母を孝行する息子として評判になりました。孝行の功徳を祈るため参詣した明石屋主の行列を乱して、無礼討ちにされたといわれています。

27 萩原宿本陣跡 MAP-I-4
萩原宿には上町と下町の2か所所間置が置かれ、上町屋・下町屋といわれ、2日交代で人馬の積立の業務を行いました。この上町屋は萩原家、下町屋は木家が勤めました。

31 高木一里塚跡 MAP-I-5
明治初年まで道の両側に塚があり残っていたそうですが、いつの間にかな形になつていっています。東側に昭和37年(1962年)「一里塚跡」の石碑が建てられました。

- 美濃路散策コース
- 16 起渡船場跡(定渡船場跡)
 - 21 人柱観音
 - 18 旧渡屋主屋
 - 22 宮戸河跡、起の大イチョ・ヤマガキ
 - 23 披本陣跡
 - 1 起宿脇本陣跡・旧林家住宅
 - 17 一宮市尾西歴史民俗資料館
 - 24 駒塚道標
 - 17 富田一里塚
 - 25 天神の渡し跡
 - 26 孝子佐吉平の碑
 - 27 萩原宿本陣跡
 - 28 萩原宿の上層屋跡
 - 29 馬頭観音
 - 30 正瑞寺
 - 31 高木一里塚跡

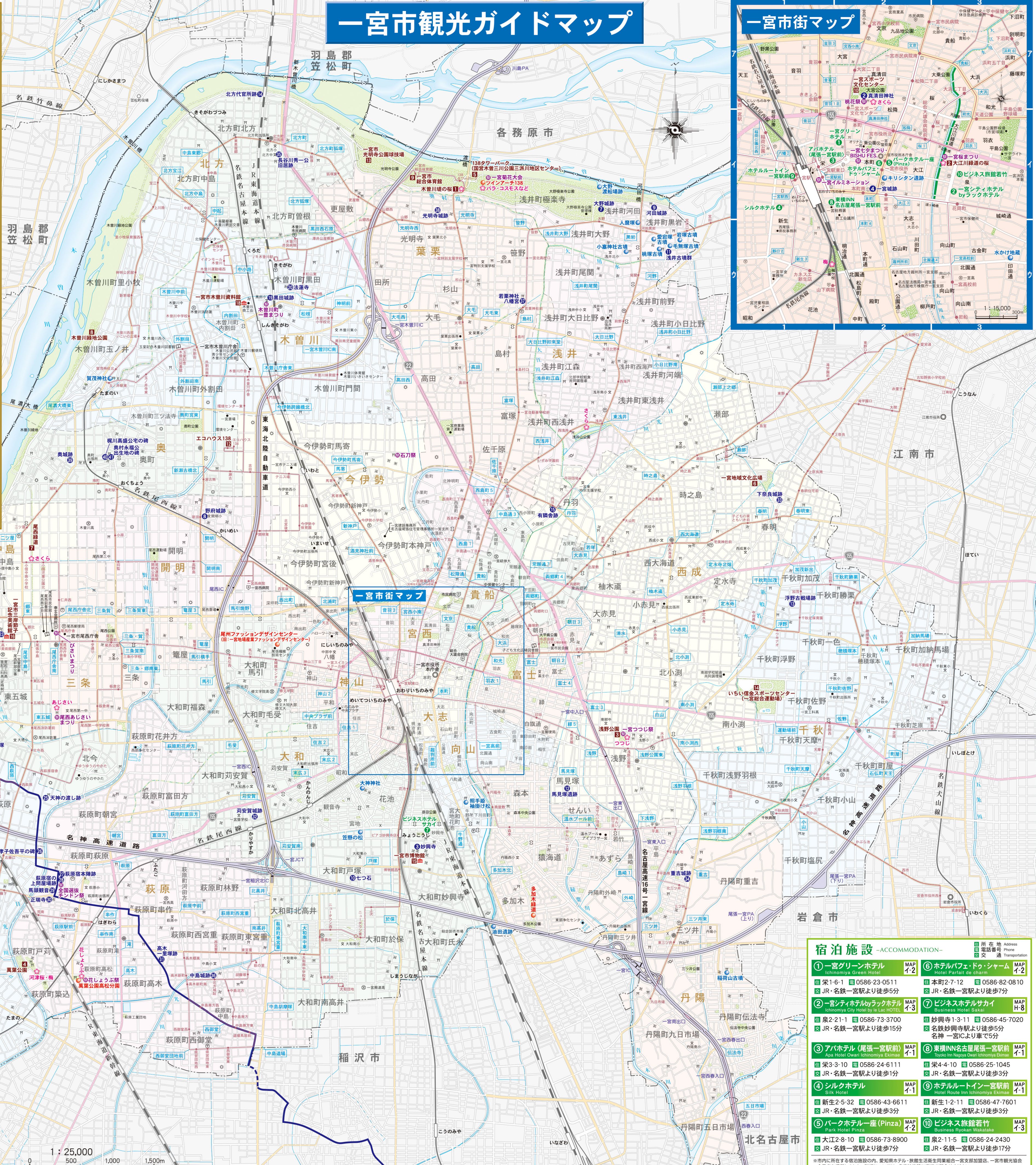
凡例

県市界、市界、町界、村界、私有地、高速道路、国道、県道、バス路線、美濃路

史跡、施設、名所、旧跡、主要観光地、博物館、美術館、神社、寺、花の名所、市役所

大学・高校、小・中学校、幼稚園、郵便局、図書館、警察署、神社、寺、主要交差点

1:25,000



一宮市観光ガイドマップ



32 刈安賀城跡 MAP-H-6
浅井新八郎が街道筋の賑わいを見せる刈安賀に築城しました。新八郎は、山内一豊の父盛豊の従弟で、流浪時代の一豊も縁を頼って寄寓(きくづ)したといわれています。新八郎の子・長時は、織田信雄の家老を殺めたが、秀吉の殿様のため信雄に殺され、城も落とされました。石碑は、自動車教習所の敷地角にあります。

36 中島城跡 MAP-J-6
尾張の在庁人として、鎌倉時代以来大活躍を世襲した中島氏の居館と考えられています。その子孫が中島藏人として居館したが、特定の個人を指すのではなく、この家が官名藏人を世襲的に用いました。室町時代末期の戦乱で廃城になったと伝えられています。石碑は、ニコニコふれあい広場「北方城址」西にあります。

37 若葉神社八幡宮 MAP-C-8
天正11年(1542年)、島村に生まれた義松正吉は、織田信長に仕え、桶狭間の初陣以来、幾多の戦いに加わり武功を重ねました。社伝によると、長松10年(1605年)義松正吉が武運長久祈願のため、若葉天神に八幡宮を合併(ごうじ)したといわれています。

38 光明寺城跡 MAP-C-8
織田信長の家臣、神戸伯耆守(はうきのかみ)が築城し、後に信長の馬廻衆の山田半兵衛が在城しました。伯耆守は、永禄12年(1569年)伊勢国北白河教父子の大河内城を攻めた夜戦で討死しています。石碑は光明寺保育園から北へ約150mの位置にあります。

39 奥城跡 MAP-E-4
織田信長・信雄に仕えた堀川高盛の居城です。小牧・長久手合戦では、信長の弟中根信照を迎え入れ奥城に籠もるが、羽柴(後の豊臣)秀吉の大軍を前に城を開きました。秀吉は、城将が家防の人物であることから加勢し、城兵全員の退城を許したものと推定されます。見学の際は、関係者に了承を得てください。

40 堀川高盛公宅の碑 MAP-E-5
堀川高盛は、高秀の子で、父とともに奥村(現在の奥町)へ移ったと思われます。天正元年(1573年)、高盛は織田信長に従い、足利義昭が籠もる横島城(京都府宇治市)攻めに加わりました。その際、宇治川で先陣を馳せ、信長から馬を下賜(かし)されたといわれています。

41 奥村永福公出生地の碑 MAP-E-5
天正12年(1584年)、越中の佐々成政は、前田利家が治める加賀・能登へ侵襲し、守将奥村永福が籠る末森城を攻め立てました。龍城は頑強に抵抗し、いには利家本軍の援を得て、城を死守しました。永福の父は、奥村(現在の奥町)に住んだとされ、永福の誕生は奥村であったともされています。

郷土の武将紹介

堀川 高盛
Takamori Kajikawa
関連史料 ⑩

奥村 永福
Nagatomi Okumura
関連史料 ⑪

1541(天文10)~1624(寛永10) 父が、奥村(現在の奥町)に住んだとされ、永福も奥村で生まれたとされています。天正12年(1584年)、越中の佐々成政が、前田利家の治める加賀・能登へ侵襲した際、守将奥村永福が籠る末森城を攻め立てました。龍城は頑強に抵抗し、いには利家本軍の援を得て、城を死守しました。

長谷川 秀一
Hidokawa Shuichi
関連史料 ⑫

1541(天文10)~1624(寛永10) 父が、奥村(現在の奥町)に住んだとされ、永福も奥村で生まれたとされています。天正12年(1584年)、越中の佐々成政が、前田利家の治める加賀・能登へ侵襲した際、守将奥村永福が籠る末森城を攻め立てました。龍城は頑強に抵抗し、いには利家本軍の援を得て、城を死守しました。

浅野 長政
Nagamasa Asano
関連史料 ⑬

1547(天文16)~1611(慶長16) 春日井郡北野村(現在の愛知県北名古屋市)の安井氏に生まれました。織田信長の弓矢をしていた叔父・浅野長勝に男子がなかったため、長勝の娘・やや(弥々の姉妹)として浅野家に迎えられ、家督を相続しました。秀吉は相模にいたねね(弥々の長男)の養女であることから、秀吉は相模にいたねね。信長に仕えたのは秀吉の家来となり、五奉行を務めました。